

公益財団法人国連大学協力会

2025 年度事業報告

I. 国連大学（以下「UNU」）の活動の周知と支援を高めるための広報・キャンペーン

1. 広報資料の作成（継続事業）

(1) ニュースレター（継続事業）

国連大学サステナビリティ高等研究所（以下「UNU-IAS」）の大学院生の生活ぶりや本法人が大学院生を対象に主催したイベントへの参加の様子などを UNU を身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らして掲載した。2025 年度は、年間 2 号以上の発行を目標とし、以下の通り 3 号を発行した。

2025 年度発行：51 号・52 号・53 号

- ・ JFUNU Newsletter 51 号：4 月発行 配布部数 2,340 部（含：インターネット配信）
Introductory Meeting—はじめまして—
Our Home Country—アフリカから来ました—
- ・ JFUNU Newsletter 52 号：7 月発行 配布部数 2,340 部（含：インターネット配信）
UNU School Visit 2024
JFUNU Study Tour 2024—Kamakura—
- ・ JFUNU Newsletter 53 号：12 月発行 配布部数 2,340 部（含：インターネット配信）
国連大学サステナビリティ高等研究所学位授与式
UNU-IAS 博士課程学生豊田通商株式会社を表敬訪問
JFUNU Peace Study Tour 2025—Hiroshima—

(2) 各種パンフレット（継続事業）

本法人の活動概要や UNU について分かりやすく解説したパンフレットや募金趣意書を、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布した。

2025 年度発行：5 種

- ・「国連大学と国連大学協力会 2025」：4 月発行 配布部数 870 部
- ・「募金趣意書 国連大学を支援するために—創立 50 周年を迎える国連大学」：
3 月発行 配布部数 870 部
- ・「募金趣意書 令和 6 年能登半島地震緊急支援募金」：1 月発行 配布部数 690 部
- ・「国連大学見学ツアー」：4 月発行 配布部数 40 部
- ・「身近な支援のご紹介（チャリボン、キモチと。、つながる募金）」：4 月発行 配布部数 590 部

(3) 国連大学 50 周年国連大学協力会 40 周年記念誌の出版（新規事業）

国連大学 50 周年を機に、UNU をより多くの人へ周知し、UNU 及び国際問題への理解と関心を高めることを目的とし、中学・高校生、大学生、教員、ビジネスパーソンを含む一般市民を読者層とした書籍『国連大学～グローバルイシューにどう取り組むか（仮）』を発行すべく準備をすすめてきたが、想定以上に時間を要することがわかったことから、他事業との優先順位を再検討した結果、本事業の実施を見送ることとした。

2. インターネットによるキャンペーン

(1) ウェブ活用による広報の拡充（継続事業）

本法人の活動について、よりわかりやすい情報発信を展開するため、本法人ウェブサイトのコンテンツを充実した。UNU や UNU-IAS が SNS による広報に注力していることから、SNS を活用した広報のさらなる充実を図った。

UNU 及び UNU-IAS の広報担当との連携を強化し、UNU 及び UNU-IAS の活動内容やイベント情報の積極的な告知や記事の紹介を行った。

(2) メールマガジン（継続事業）

賛助会員や UNU Alumni Association（UNU 同窓会）のメンバー、配信希望者に、UNU、UNU-IAS 及び本法人の様々なイベント案内を中心に、基本週 1 回配信した。

(3) 若年層への広報活動（継続事業）

近年、中学生・高校生・大学生の間で SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）への関心が高まり、これら若年層の要望に応じて UNU School Visit（国連大学見学会）という形式の広報活動を UNU 広報部と連携し実施してきた。UNU 及び国際問題への理解と関心を高められるよう、UNU と協力し組み立てたプログラムに基づき、小学生から社会人まで幅広い年代を対象とし、2025 年度は 18 件実施した。申込件数は 28 件あったものの、国連大学 50 周年の記念イベント等で国連大学会議場見学が可能な日が減ったことから、2024 年度の実施件数 24 件と比べると減少した。

その一方で、社会人の見学申し込みが増加し、国連 UNHCR 協会などの国連関係の団体や国外の団体に対しても実施した。

(4) ロータリークラブ等での広報活動（継続事業）

UNU の活動を幅広く広報するため、地域の各ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努めた。2025 年度は、東京南ロータリークラブより卓話の機会を得た（2026 年 1 月実施）。このことが、同クラブから本法人への寄付金増額につながった。また、国際ロータリー第 2750 地区幹部の国連大学見学に対応した。

II. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等

1. 講演会（継続事業）

2025 年度は実施に至らなかった。

2. セミナー・シンポジウム等（継続事業）

2025 年は以下の 2 件を実施した。

i. 茨城県高校生国連グローバル・セミナー

2025 年 2 月に UNU-IAS との連携のもと、茨城県と共催で 2 日間にわたり Online（Google Meet）と対面で実施し、茨城県下の高校生 43 名が参加した。

本セミナーは、UNU の研究者による講義や、英語でのディスカッションを実施することで、高校生の国際的な視野を広げるとともに、国際社会への貢献に取り組む姿勢を育てることを目的としており、Sustainability について 1 日目は UNU の研究者による講義や UNU-IAS 大学院プログラムの学生たちによるプレゼンテーションが Online で、2 日目は対面で UNU 施設見学会や UNU-IAS

大学院プログラムの学生たちとのディスカッション、高校生の SDGs についてのプレゼンテーションが行われた。

ii. 能登復興国際支援シンポジウム「災害に強い地域の復興を目指してー能登・東北・世界から学ぶ自然を活かした防災・減災」

2025年3月に UNU-IAS、環境省、石川県、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）と共催で、Online（Zoom 配信）と対面のハイブリットで実施し、参加者は Online200名、来場 50名の計 250名に達した。本シンポジウムには国際的な専門家や能登、東北の代表者が集い、復興に向けた現在の取り組みや、レジリエントなコミュニティの形成に向けたマルチハザードアプローチを用いた防災について、災害リスクや地域資源を活用した防災と復興の可能性、災害に強い地域モデルの構築をトピックとした議論が行われた。

また、UNU 主催で行われた『こども国連大学見学デー2025』（2025年8月）及び『国連大学 50周年記念式典』（2025年9月）においては、受付や案内等の人的協力を行った。

III. 国連大学への助成活動

UNU への助成に当たっては、事前に UNU 関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成対象事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行った。（各事業への助成額は附属明細書を参照）

1. 教育活動への助成

(1) 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムに対する奨学金助成(生活費枠)

(継続事業)

UNU の実施する大学院プログラムのうち、日本・東京にある UNU-IAS が実施する大学院プログラム（サステナビリティ学修士課程及び同博士課程）の学生に対し、生活費を中心とした奨学金を助成している。2025年度は、修士課程学生 3名、博士課程学生 5名、合計 8名に対し、2025年12月に2025年9月～2026年8月までの生活費1年間分の奨学金を助成した。

また、本法人が公益財団法人みずほ国際交流奨学財団奨学金を UNU-IAS に紹介し、修士課程2名の学生が2026年10月から2年間本法人と同額の奨学金（月額12万円）を同財団より得ることができた。なお、冠奨学生（*）については、支援者の皆様へ、来日時に来日挨拶の、修了時にはお礼の表敬訪問をそれぞれ対面で行い、支援者とのつながりを深めた。

*冠奨学生…特別賛助会員の企業や個人が支援している学生で、奨学金名にその企業や個人名を冠している。

(2) 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムに対する奨学金助成(授業料枠)

(継続事業)

UNU の実施する大学院プログラムのうち、UNU-IAS が実施する大学院プログラム（サステナビリティ学修士課程及び同博士課程）の学生に対し、授業料に相当する奨学金を助成している。

2025年度は、修士課程学生1名、博士課程学生2名、合計3名に対し、2025年12月に2025年9月～2026年8月までの授業料1年間分の奨学金を助成した。この助成は、公益財団法人森村豊明会からの助成金を活用して実施した。

(3) 国連大学サステナビリティ高等研究所の実施する短期研修への助成（継続事業）

2025年度は、2025年8月に4日間、2024年度に引続き令和6年能登半島地震で被災した金沢市及び白山市で開催された国連大学グローバル・セミナー [UNU Global Seminar] に助成した。

このセミナーは、大学院生及び若手の社会人が対象で、地球規模の課題に対する理解を深め、地域と世界のつながりの中で持続可能な未来について考えることを目的に、講演やグループ討論が実施される。2025年度は、「気候危機とともに生きる：能登、金沢、白山から学ぶレジリエンスと持続可能な社会づくり」と題し、参加者は座学、現地視察やグループワークを通じてレジリエンスと創造的な復興、生物文化多様性と地域資源の活用についての理解を深めた。12か国、17の異なる大学からの30名と4名のUNU-IAS生が参加した。

2. 研究活動への助成（継続事業）

UNU-IASの行う研究活動に対し必要に応じて助成してきたが、2025年度は助成対象プログラムがなかったため、実施しなかった。

3. 国連大学の教育・研究環境整備のための助成（継続事業）

(1) 国連大学本部における教育・研究のための施設整備費（継続事業）

(2) 国連大学図書館の蔵書購入費（継続事業）

2025年度もUNUの教育・研究活動上の環境整備に対して助成した。

IV. 地球規模課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

2025年度は、募金活動新規開拓に向けて、各企業におけるサステナビリティに関する取り組みについて資料・情報収集を行った。

V. 国際相互理解の促進等に関する事業

1. 国際情報交流事業（継続事業）

世界各国で活躍する修了生たちと賛助会員、日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を講演会やシンポジウム等と連動して提供するものだが、2025年度は実施しなかった。

UNU教育プログラム修了生からなるUNU Alumni Associationは、本法人が2007年に設立し、その事務局を担っており、毎年登録データの更新を行っている。2025年12月現在の登録者は1495名。2025年度は大学院プログラムが開設して15年経つことから、登録者のうちJFScholarship生（本法人の奨学金助成を受給した学生）へ、近況調査（アンケート形式）を行い募金趣意書等の作成に役立てた。

2. 日本文化体験事業（継続事業）

世界各国から日本にやってくるUNU-IAS大学院プログラムの学生に日本文化や日本の社会についての理解を深めてもらうことを目的としており、2025年度は以下3件を実施し、iとiiについては公益財団法人森村豊明会の助成金を活用した。

i. 2025年6月20日 歌舞伎鑑賞会 Discover Kabuki（参加院生数8人）

解説 歌舞伎のみかた/土屋主税@サンパール荒川

ii. 2025年7月17-19日 JFUNU Peace Study Tour 広島見学会（参加院生数14人）

1日目 広島大学との交流会

2日目 被爆体験講話/平和記念資料館/マツダミュージアム/平和記念公園

3日目 厳島神社

iii. 2025年12月17日 文楽鑑賞会 Discover Bunraku (参加院生数8人)

万才/解説 文楽の魅力/国性爺合戦@東京芸術劇場プレイハウス

3. 災害復興支援事業（継続事業）

2024年1月1日の令和6年能登半島地震により、金沢市にある国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット（UNU-IAS OUIK）と活動連携をしている5団体が被災したため、UNU-IAS OUIKの依頼により、2024年は同5団体への支援を行った。2025年度は年末に募金が集中したため2025年度内の助成は行わずに、2026年度に引き継いで助成を実施することとした。

VI. 募金活動

UNUは他の一般的な国連機関と異なり加盟国の分担金に基づく国連予算からの配分を全く受けていないことから、本法人は創設以来、継続的にUNU支援のための募金活動を実施してきた。UNU-IAS大学院プログラムが創設された2010年以降は、大学院プログラムへの奨学金助成に特化した募金活動を展開してきたが、15年が経過した本年2025年度はUNUが50周年を、本法人が40周年を迎える節目の年であることから、本法人事業全体への募金活動に戻し（「賛助会員制度の改正」、理事長指揮のもと、募金趣意書を改定、各理事及び各評議員の協力を得て、新規先を開拓するなど積極的な活動を展開した。

（寄付金収入額は附属明細書を参照）

1. 国連大学協力会支援募金活動（継続事業）

〈旧：国連大学・国連大学サステイナビリティ高等研究所/大学院プログラム支援募金活動〉

本法人の全事業は、UNUの本部の諸活動及びUNU-IAS大学院プログラムを含むUNU-IASの教育研究活動等を支援することを目的としており、事業の中心となるUNU-IAS大学院プログラムへの助成事業に対する募金活動を中心に展開する。2025年度の各種募金活動は以下の通り。

(1) 賛助会員（継続事業）

〈旧：JFScholarship 賛助会員〔法人/個人〕一般賛助会員〔法人/個人（社会人/学生）〕〉

一般社団法人日本経済団体連合会より、添書の発行と会長・副会長会議及び審議員会議長・副議長会議での協力要請という支援を得て、会長・副会長企業19社中19社、審議員会議長・副議長会議企業24社中21社を理事・評議員及び事務局員が訪問し支援を依頼した。

また、既存会員19企業・団体中18企業・団体を訪問し継続・増額の依頼をするとともに、既存会員個人45人へ継続依頼の文書を発送した。

会員数：

会員区分	件数	内訳					
				継続	新規	増額	
						区分外	区分内
特別賛助会員	6	法人	5	3		2	
2,000,000円以上		個人	1	1			
賛助会員A	16	法人	15	9	3	1	2
500,000円以上		個人	1		1		
賛助会員B	3	法人	1	1			
100,000円以上		個人	2	2			
賛助会員C	26	法人	0				
10,000円以上		個人	26	26			
合計	51	法人	21				
		個人	30	42	4	3	2

(2) 多様な募金活動（継続事業）

UNUが実施する研究教育プロジェクト等への助成及び本法人の事業活動へ、任意の時期に任意の金額で支援を得る形の募金。昨年度に続き、古本回収(チャリボン)や古物買取(キモチと。)、ポイントの寄付利用(つながる募金)といった多様な形態での募金を UNU School Visit や website、メールマガジン等で呼びかけた。

特に各募金活動プラットフォームの寄付強化期間には、メールマガジンによる呼びかけを行った。

古本回収(チャリボン) 1月3日～1月13日、3月1日～3月31日、4月26日～5月6日、
6月1日～6月30日、7月6日～7月31日、9月21日～9月28日、
11月1日～11月30日、12月1日～12月31日

古物回収(キモチと。) 3月1日～3月31日、12月1日～12月31日

寄付件数：古本回収(チャリボン) 法人5 個人8

古物回収(キモチと。) 0

2. 令和6年能登半島地震緊急支援募金活動（継続事業）

2024年1月1日の令和6年能登半島地震により、金沢市にある UNU-IAS OUIK と活動連携をしている団体が被災したため、UNU-IAS OUIK の支援依頼により、2024年度より復興支援の募金活動を行っている。2025年度は、3月に Online と対面のハイブリットで実施した『能登復興国際支援シンポジウム「災害に強い地域の復興を目指してー能登・東北・世界から学ぶ自然を活かした防災・減災」』（UNU-IAS、環境省、石川県、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）と共催）の会場で募金活動を行ったほか、UNU School Visit や website、メールマガジン等で募金を呼びかけた。

寄付件数：個人5

VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of JFUNU]

本法人は、公益財団法人への移行後15年が経ち、UNU との円滑な協力体制の下、諸活動は着実に実施されている。また、理事会、評議員会及び監事会議の他、助成諮問委員会、資産運用委員会や募金推進委員会を適切に開催し、各会議による助言・指導のもと、執行理事の権限等の役割分担に基づいて、公益法人としての社会的責任を十分に果たしてきた。

2025年度は、役職員で積極的に募金活動を行い寄付金収入額が増加したことに加え、運用益が若干増加したこともあり、2024年度に引き続き運用資産の取り崩しは免れた。

しかしながら、依然として支出額に大幅な削減要因はないため、寄付金収入に拠るところが大きく、財務運営は引き続き厳しい状況であり、次年度以降も積極的な募金活動が必要であることを確認した。資産運用については、理事・評議員や資産運用委員と議論を重ね、運用基準となるポートフォリオを策定した。

<公益財団法人国連大学協力会 2025 年度事業報告 附属明細書>
2025 年度 寄付金収入及び国連大学への助成実績一覧

寄 付 金 収 入 (Donations and Dues)		金 額
賛助会員	法人	22 件 (20,600,000 円)
	個人	33 件 (3,150,000 円)
その他 ・古本募金 (チャリボン) ・古物募金 (キモチと。)	法人	5 件 (47,141 円)
	個人	8 件 (20,324 円)
	法人	0 件
	個人	0 件
令和 6 年能登半島地震緊急支援の寄付	法人	0 件 (0 円)
	個人 (含:募金箱)	5 件 (1,051,136 円)
合計額 :		24,868,601 円

国 連 大 学 へ の 助 成 (Grants for UNU)	金 額
・国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムに対する奨学金助成 (生活費枠)	11,760,000 円
・国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムに対する奨学金助成 (授業料枠)	3,600,000 円
・国連大学グローバル・セミナーに対する助成	600,000 円
・国連大学本部における教育研究のための施設整備費	5,000,000 円
・国連大学図書館の蔵書購入費	50,000 円
合計額 :	21,010,000 円